

平成22年度カーボンフットプリント試行事業
第2回カーボンフットプリント・ルール検討委員会

議事要旨

日時： 平成22年6月10日（木）10：00～12：00

会場： 全日通霞ヶ関ビル8階 大会議室（A）

●出席者

稲葉委員長、平尾副委員長、須田委員、辰巳委員、西尾委員
（出席5名、欠席2名）

●議題

1. 前回議事要旨の確認
2. ルール見直し検討について
3. 今後の予定

●議事概要

- ・ 議題1. について、「第1回ルール検討委員会議事要旨（案）」が承認された。
- ・ 議題2. にき、事務局より説明が行われた。
- ・ 議題2. について、挙げられた課題の対応方法の検討および審議が行われた（下記参照）。

1. 「算定に関する課題」の審議概要

（1）流通・販売段階の算定

<合意した方向性>

- 流通・販売段階のうち、店舗における販売部分については暫定的に評価対象外とし、店舗に至るまでの物流部分については、従来どおり評価対象に含める。

<その他の追加意見>

- 販売については中長期的に考えていく課題と位置づける。その際、販売業としてサービスのカーボンフットプリントを検討することで、販売事業者の削減努力を評価することができるのではないか。

（2）廃棄・リサイクル段階の算定（リサイクル材の取り扱い）

<合意した方向性>

- 廃棄・リサイクル段階のシステム境界について、回収や前処理といったリサイクル準備段階までを、使用済み製品のカーボンフットプリントとして算定対象に含める。

<その他の追加意見>

- 追加表示におけるリサイクル効果を評価する際には、間接影響の部分も考慮したシステム境

界を設定する必要があるため、廃棄・リサイクル段階の算定対象の設定とは別の検討が必要ではないか。

(3) 一次データ・二次データ

<合意した方向性>

- ▶ 事業者内で共通のデータを使う利便性やデータの信頼性を考慮し、共通原単位データベースおよびPCRに掲載されていない二次データについては、暫定的に試行事業事務局が「参考データ」として提供することとし、PCRにおいて位置づけを明確にする。

<その他の追加意見>

- ▶ 将来的には、カーボンフットプリントの普及によって一次データの入手が容易になることや、共通原単位が拡充して、参考データの利用は減少していくことが期待される。

2. 「表示に関する課題」の審議概要

(1) マーク本体の数値

<合意した方向性>

- ▶ 「単位量あたり表示」「削減率」「数値なし」といった多様な表示方法を試験的に認める方向性で進める。ただし、具体的な表示方法や検証方法など詳細については今後の検討課題とする。
- ▶ 数値をラベルに記載しない場合、数値情報等を開示する場所がわかるように、カーボンフットプリント・ウェブサイトには必ず掲載するよう特定し、ホームページの存在を含めて広く伝えることが必要。

(2) 中間財のマーク利用

<合意した方向性>

- ▶ 中間財のマーク利用については、ISO化の動向も注視しつつ、今後時間をかけて検討を行うこととする。

<その他の追加意見>

- ▶ 今後の検討にあたり、中間財を定義することにこだわり過ぎることがないように注意が必要。上流の製品について、表示されるカーボンフットプリントが何を表しているのかがわかりやすく伝わり、それを川下のメーカーがモジュールとして利用しやすくなる、ということが重要ではないか。

(3) 追加表示における、製品の「効果」による削減量の扱い

<合意した方向性>

- ▶ 2つの製品を比較して削減効果を示すにあたっては、同一PCR内でシステム境界を揃えて評価する必要がある。
- ▶ ただし、使用済み製品のリサイクル効果を示すにあたっては、「1. (2)」のように算定範囲をリサイクル準備段階までと定めてしまうと、定量評価をすることが出来ない場合も発生するため、継続課題とする。

3. 「PCR関連」の審議概要

(1) PCRの策定負荷

<合意した方向性>

- ▶ 「改定PCR原案テンプレート（案）」に沿って「PCR原案テンプレート」の改定を行うこととする。

<その他の追加意見>

- ▶ より簡潔な記述ができないか、更なる検討の余地があると思われる。

(2) PCR策定における商品種別の考え方（登録時）

<合意した方向性>

- ▶ 大括りのPCRを試験的に策定し、これに基づくCFPの算定・表示を試験的に実施する。
- ▶ 大括りPCRの試験的な実施の具体的な進め方については、事務局が検討し提案を行う。

<その他の追加意見>

- ▶ 大括りPCRの分類に関しては、韓国やフランス等の海外の事例を参考に検討してはどうか。

(3) 策定されたPCRの内容

<合意した方向性>

- ▶ 既存のPCRを見直し、必要に応じ事務局側で修正を行うこととする。
- ▶ 修正する場合には、策定事業者の意見を伺いながら進めていくこととする。

4. 「その他の課題（前回事指摘のあった主な課題等）」の審議概要

(1) 一次データの収集範囲

(6) 事前評価（事前CFP試算）の必要性

<合意した方向性>

- ▶ PCR原案策定時にはCFPの簡易計算による事前評価を行うことを前提に、CFP算定結果に大きく影響を及ぼす項目については一次データの収集を原則行うなど、データ収集範囲についてメリハリをつけることとする。

(2) サービスのカーボンフットプリント

<合意した方向性>

- ▶ サービスのカーボンフットプリントについては、サービスの定義を整理することとあわせて、時間をかけて検討する。
- ▶ 当面の試行事業においてサービスに関するPCRの申請があった場合には、検討課題が継続扱いのままであることを事業者の説明し、協力を得ながら検討を進める。

(3) 使用・維持管理段階のシナリオの考え方

<合意した方向性>

- ▶ 使用・維持管理段階において想定される利用方法が多岐にわたる商品、および使用・維持管理段階においてGHG排出がされない商品については、国際的な議論も考慮しつつ、当面の間は個別のPCRでその扱いを定めることとする。

- ▶ ライフサイクル全体の排出量は、ウェブサイト等で数値情報等を開示することを条件とする。

(4) カットオフ基準

<合意した方向性>

- ▶ カットオフ基準については、PCR内で事業者の一次データ収集範囲を特定し、カットオフした部分を明確に表示することを条件として、全体のGHG排出量の5%を超えない量をカットオフしてもよい、という運用のルールを定めることとする。

(5) 資本財（機器、設備等）の取り扱い

<合意した方向性>

- ▶ 資本財を考慮すべき条件については、国際的動向も踏まえて、時間をかけて検討していくこととする。

(7) その他の課題（土地利用変化、炭素貯留など）

<合意した方向性>

- ▶ ISOで議論されている最中であり、国際的動向も踏まえて、時間をかけて検討していくこととする。

5. その他

- ▶ 試行事業の運営として、PCR認定委員会やCFP検証パネルの開催日程など、試行事業全体のスケジュールが示されている方が望ましいと思われる。

以上